

総務常任委員会の記録

(ふるさと創生課)

招 集 年 月 日	令和5年3月3日(金)
招 集 の 場 所	松野町議会議場
開 会	3月13日(月) 午後 1時29分
閉 会	同 上 午後 3時00分
出 席 委 員	山石 恭助、山崎 匡、加藤 康幸、森岡 健治、赤松 紀幸、 安西 博文、山田 寛二
欠 席 委 員	
付 議 事 件 説 明 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	町長 坂本 浩、副町長 八十島 温夫、 課長 井上 靖、課長補佐 石田 和弘、課長補佐 土居 孝二郎
職 務 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	議会事務局長 大谷 吉廣
付 議 事 件	1 議案第18号 令和5年度松野町一般会計予算について ◎ 歳入(該当分) ◎ 歳出 2款 総務費

山石委員長	<p>ただいまから、ふるさと創生課所管の付託案件の審査を行います。</p> <p>議案第18号「令和5年度松野町一般会計予算」歳入該当分、歳出2款 総務費、ふるさと創生課所管分の審査を行います。</p> <p>担当課長に説明を求めます。</p>
井上課長	<p>(業務計画について業務計画書により説明)</p> <p>議案第18号「令和5年度松野町一般会計予算」のうち、歳入該当分、歳出2款総務費のふるさと創生課分について説明いたします。</p> <p>まずは予算書にて、予算計上の概略を説明させていただき、その後には抜粋とはなりますが、お配りしている資料にて、事業ごとにご説明させていただきます。予算書の43ページをお開き下さい。</p> <p>2款、1項、7目企画費の歳出予算額は計251,052千円で、前年度比17,721千円の減となっています。</p> <p>1節報酬には、まちづくり委員会の委員報酬や、地域おこし協力隊1名分の報酬を計上しております。なお、この地域おこし協力隊の関係する手当や活動に対する旅費、その他経費一式を企画費に計上しています。</p> <p>7節報償費には7,591千円を計上しており、その内訳は、県内のプロスポーツチームである愛媛FC及びマンダリンパイレーツの支援や森の国まつの応援団に係る賞品費、景観審議会等委員謝礼、地域公共交通会議委員謝礼のほか、定住促進条例に基づく結婚祝金や出産祝金、松丸高校事業協力者謝礼等を計上しております。</p> <p>8節旅費では、各委員会の費用弁償のほか、移住促進事業、地域おこし協力隊の募集活動に係る費用弁償や普通旅費、移住者情報やふるさと納税の推進、企業情報収集をはじめ、様々な部門でのネットワークづくりに資するための関西圏域愛媛県人会交流事業、本年度開催を見合わせた森の国まつの応援団に関する費用や人材育成事業である松丸高校事業での旅費等を計上しており、その財源として、県補助金や過疎債のソフト事業分と特別交付税を充当しています。</p> <p>10節には各種事業に要する需用費1,283千円、11節役務費</p>

には通信運搬費等に 898 千円を計上しております。

続いて、12 節委託料には 13,266 千円を計上しており、その内訳の主なものは、重点プロジェクト調査委託料、ふるさと納税管理業務委託料、空き家診断委託料、松丸高校事業に係る専門家のアドバイスや運営の補助など総合的にサポートしていただく未来の大人応援プロジェクトアドバイザー業務委託料などを計上しております。なお、このアドバイザー業務委託料につきましては、その財源として全額を国の特別地方交付税交付金にて充当することとしています。また、ふるさと納税に係る管理業務委託料のなかには、返礼品の費用も含まれております。

次に、13 節使用料及び賃借料 1,982 千円につきましては、高速道路通行料や渡船使用料のほか、地域おこし協力隊や移住関係の各種借上げ料を計上しております。

次に、17 節備品購入費は、地域おこし協力隊事業に係るパソコンの周辺機器の購入費用を計上しております。

次に、18 節負担金補助及び交付金の主な内容といたしましては、宇和島地区広域事務組合負担金 156,788 千円を計上し、詳細な内容については別冊資料に記載しています。そのほか、JR 予土線の利用促進施策を推進するため、宇和島市、鬼北町、松野町で構成する予土線利用促進対策協議会負担金に 500 千円、また、住民と行政の協働のまちづくりに対する事業として、協働のまちづくり事業補助金に 1,500 千円、高齢者外出支援事業補助金に 2,242 千円、地域づくり交付金に 5,000 千円を計上しております。

移住定住関連の補助金、交付金につきましては、定住住宅建築奨励金 6,000 千円、住宅リフォーム補助金に 2,000 千円、お試し移住者宿泊費補助金に 490 千円、移住者住宅改修支援事業費補助金 4,400 千円、移住促進空き家改修事業費補助金に 3,000 千円、空き家活用移住者住宅整備補助金 3,000 千円を計上しています。

そのほかの主なものとして、特定地域づくり事業協同組合補助金と

して7, 310千円、愛媛・大分交流市町村連絡会議に負担金として100千円、愛媛県・市町DX推進会議負担金2, 996千円松野町公共交通計画を策定するための協議会への補助金である地域公共交通会議事業費補助金6, 595千円、新規事業として、宇和島鉄道全線開通100周年記念イベントに対する実行委員会への補助金500千円、公共交通の運賃改正に伴う対策として、中高生等の鉄道・バス通学定期券購入補助に1, 000千円を計上しております。

続いて、24節積立金10, 001千円は、ふるさと応援基金積立金であります。

予算書50ページをお開きください。15目コミュニティバス運行費は16, 823千円、前年度比329千円増額となっております。

主な予算計上内容は、コミュニティバス3台分の経費として、10節の需用費3, 423千円、11節役務費278千円、12節に自動車運転委託料として13, 060千円、13節使用料及び賃借料29千円、26節公課費に33千円を計上しております。

予算書56ページをお開きください。2款5項1目統計調査費は298千円、前年度比104千円の減額計上となっております。

令和5年度の主な統計業務は、学校基本調査、住宅土地統計の実施、世界農林業センサスと、国勢調査の準備、統計調査員確保対策事業を予定しています。

次に、これまでの歳出予算に係る歳入の主なものについて説明いたします。予算書19ページをお開きください。13款、1項、1目総務使用料の3節にコミュニティバス運賃収入576千円を計上しております。

予算書22ページ、14款2項1目に地方創生推進交付金として、2, 428千円、また、特定地域づくり事業推進交付金として3, 654千円を歳入計上しております。

予算書25ページをお開きください。15款2項1目に、1節企画費補助金として、移住者住宅改修支援事業費補助金2, 200千円、

	<p>同じく 2 節、コミュニティバス運行費補助金は生活交通バス路線維持・確保対策事業費補助金 3, 0 4 5 千円で、民間の生活バス廃止路線の代替バス等の運行が補助対象であり、町コミュニティバスの運行欠損がこれに当たることから補助金が交付されるものであります。</p> <p>予算書 2 8 ページをお開きください。1 5 款 3 項 1 目のうち、7 節 統計調査費委託金 2 7 9 千円は、各種統計調査に係る委託金であります。</p> <p>予算書 3 0 ページをお開きください。1 7 款 1 項 2 目総務費寄附金には、ふるさと応援寄附金 1 0, 0 0 0 千円を計上しております。</p> <p>続きまして 3 4 ページをお開きください。2 1 款 1 項 1 目過疎対策事業債のうち、ハード事業分では、宇和島地区広域事務組合負担金として、3 事業に 6, 2 0 0 千円、ソフト事業分では、定住促進事業 1 3, 6 0 0 千円、協働のまちづくり推進事業 6, 5 0 0 千円、森の国応援団支援事業 3, 2 0 0 千円、関西圏域愛媛県人会交流事業 9 0 0 千円などの各種事業の財源を充当しております。</p> <p>以上で予算書の説明を終わります。続いて、お配りしております資料にて事業ごとの概要説明をいたします。</p> <p>～資料により説明～</p> <p>以上でふるさと創生課分の説明を終わります。よろしくご審議を賜り、承認いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>山 石 委 員 長 担当課長の説明が終わりました。</p> <p>委員からの質問を許します。</p> <p>安 西 委 員 誠に簡単な質問で、松丸高校、という名前ですね、あえて松丸高校にしたのか。松野高校にしなかったのか。</p> <p>知りたいと思います。</p> <p>井 上 課 長 この事業の起こりからなんです、実はこの事業、原案としまして、2 つの視点がございます。</p> <p>1 つは、先ほど御説明申し上げましたが、小中学校としっかりと地域資源を学んだ子どもたちが、高校に行った時に活躍の場がないとい</p>
--	--

うか、松野町から少し距離が置いてしまうというところで、自分たちが活躍をする場を自分たちで作ろうという視点がまず1つ。

ただ、これは松丸高校プロジェクトという名前では、彼らは申し上げておりませんでした。そのような中で、名前がついた原因の1つは、行政側からの考えです。

松野町において令和3年度、松野町の職員6人と、四国内の企業、いろいろな企業の社員さん30名が集まって、4ヶ月にわたって、一堂に集まって、松野町の課題を解決する政策の立案についての研修会を行いました。

そこで、町としては、松野町の今こういった課題があるので、そういった課題を解決する施策を打ち出してほしいということを経営形式でやらせていただいたんですが、その時に、この松丸高校プロジェクトという名前で、人材、いわゆる、すばらしい松野町の小中学校の教育を受けた人材を生かした、まちの課題解決をしたらどうかという、施策の提案がございました。

ほかにも、3つのすばらしい提案がございましたが、特にこの高校生、いわゆる子どもたちの活躍の場を作る施策、やったらどうだというのが採用されて、その時の元の名前が、松丸高校でした。

というのが、名前のついた始まりでございます。

ですが、これはあくまでも役場の施策上の名前であって、子どもたちは、すぐに松丸高校じゃなくて松野高校じゃないか、ということで、私たち立松野イズム高校という名前で、活動を始めようということで、令和4年度から始めてきたところです。

そこで、このたび2月24日、自覚と責任を持って更に活動していこう、自分らが卒業しても、活動が続くように、法人化しようということで、一般社団法人松野イズムプロジェクトという名前で、更に進化をして、現在、これから活動していこうというところでございます。

したがって、事業名だけ、松丸高校という元の事業名を使っておりますが、名前のついた経緯は以上でございます。

安西委員	<p>これ以上、変更するというようなこともなく、もうこのまま。</p> <p>現在は、松丸亮吾かなんかという、テレビでよく出る方もおりますけど、松丸のほうが、名前が通りやすいのかもしれませんが、もうこれで変える意向はないのでしょうか。</p>
坂本町長	<p>今ほど説明しましたように、最初の経緯から、松丸高校という、名前をつけてますけれども、これは役場といいますか行政内だけのプロジェクトの名前でございまして、広く発信する時は、今言いました高校生たちの、松野イズムプロジェクト、というところで打ち出していきますので、これ必要に応じていつでも変えれますので、この役場内のプロジェクト名は、やっぱ松丸だけじゃまずいだろうと、ほかの地区に申し訳ないだろうということであれば、来年以降、変更も考えますが、あくまでもこの内部の、行政内部の名称ということで御理解いただいたらと思います。</p>
安西委員	<p>行政内部といいますしても、昨日か一昨日愛媛新聞に松丸高校という名前で、記事が出ておりましたけどね。</p> <p>分かりました。</p>
赤松委員	<p>この件についてのことで言わしてもらったと思うんですが、今ほど経緯は説明があったんですが、今まで議会に対して、このプロジェクトの名前を使われた時には、仮称ということで、松丸高校という、そういうような表現をされて、過去議会のほうに説明をいただいたと記憶しております。</p> <p>そういうことですから、知らん間にその仮称というのがのいてしまって、松丸高校というようなことに今日至っていると私はそのように理解しとるんですが、そういう経緯もありますし、今回議員になられました安西議員からも、そんな素朴な、今、意見が出たわけですが、是非このことについて、もう一度、検討していただいたらありがたいと思っております。</p>
坂本町長	<p>今両議員から御指摘ありましたので、この件につきましては、再度協議をさせて、検討させていただきたいと思っております。</p>

山崎委員	<p>はい、今の件なんですけれども、こちらが名前をどうのこうの言うべきものではないんじゃないですか。</p> <p>何か、高校生たちが自立的にこういうことを考えられたんだったら、考えられた高校生たちが、いいと思う名前をつけられたらいいことであって、町のほうが名前をどうのこうの、内部の資料的には、この名前がいいんだったらいいと思いますけど、何かちょっと話が違ふんじゃないかなと僕は思って、子どもたちにやっぱり主体性を持たすべきだと思います。</p>
坂本町長	<p>今、子どもたちがやっている、一般社団法人松野イズムプロジェクトがやるこの私たち立ハッシュタグマツノイズム高校、これについてはもう私たちが、何といたしますか、口を挟む筋合いでもないしそういったつもりは全くありません。子どもたちの自由にやっていただきたいというふうに思っております。</p> <p>ただ先ほど両議員から御指摘のありましたのは、その前の段階の、それを支援する行政の立場、そのプロジェクト名はどうかなということなんで、そういった子どもたちを応援する、こちら側の事業につきましては名前ももう一度、検討させていただきたいと思います。</p>
山崎委員	<p>経緯を知らずに申し訳ありませんでした。</p> <p>ようやく理解できました。</p> <p>高校生のバス通学定期券の補助事業についてなんですけれども、まずお聞きしたいのが1万円という数字の根拠。</p> <p>子どもたち自身も、北宇和高校、宇和島東高校、南高校、吉田高校と津島高校、いろいろ通学定期代の違いがあると思います。一律に1万円という金額っていうのは配布する補助する側とすれば、すごい事務処理は楽な方法だろうと思うんですけども、3年間、通学させる宇和島へということになると、かなりの額が負担になっていたような、経験があります私も。</p> <p>もう少し、距離に応じてとか、84人しか高校生がいないのだったらもうちょっと支援してあげれるんだったら、もう少し距離に応じた</p>

井上 課 長	<p>支援策なども考えていただいたら、いいんじゃないかなと思うんですが。</p> <p>この補助額の決定というのは、部内でも、十分議論したところですよ。全額補助したらどうか、いやいや路線ごとに、費用も変わりますから、それに応じて出すべきじゃないか。いろいろ議論を重ねた結果でございます。</p> <p>なお、今回、この定期券、どれくらい上がるかということ、まずもって御説明申し上げます。</p> <p>宇和島松丸間現行1年間6ヶ月の定期を2回に分けて買った場合、9万1千500円のところが、5月20日以降、10万8千760円になります1万7千260円増額になります。</p> <p>一番近い距離で松丸近永間がでございます。現行4万980円のところ、4万8千80円、7千100円の値上がりでございます。</p> <p>この値上がり率の平均をとりまして、出した金額というのが、1万円という切りのいい数字で、1万円ということになります。</p> <p>じゃあ、近永松丸は7千100円しか上がらんじゃないかということであるんですが、もともとの通学の定期券の購入が、4万8千80円になります。</p> <p>というところで、公平性を期するということ、一律1万円という補助金額っていうの、割り出したところでございます。</p>
山崎 委 員	<p>私自身が勉強不足の点もあると思うんですけど、これ以外の高校生の通学券の補助というのは、町以外も含めて今のところ、何か対策というか補助自体はされてるんですかね。</p>
井上 課 長	<p>ございません。</p>
山崎 委 員	<p>それがないということですから、今回の件に関してはもう、とやかく言うつもりはないんですけども、将来的に、やっぱりこれだけの高額な財政的な負担が、高校生のお子さんを持たれてる方にはのしかかっているということだろうと思います。</p> <p>授業料の免除とかいろいろな国の政策で、そういうのは、恩恵を受</p>

<p>坂 本 町 長</p>	<p>けられた方も多かったんですけど、やはり松野という地域で、通学させるということは、これだけやっぱり経済的な負担が親にのしかかる。複数のお子さんがおられたらその倍、また3倍かかるということです。将来的に、もっと子育て支援に力を入れるということでしたら、やはりもう少し大胆でしっかりと補助できるような、内容というのをまた御検討していただくのをお願いして、質問とさせていただきます。</p> <p>大変力強い御意見でありがたく思っております。</p> <p>実は高校生の定期の補助、もともとは子育て支援というよりも、JRが、予土線が値上がりすると、これますます予土線の利用者が少なくなるから、利用促進が先にあったわけなんです。</p> <p>その時に1番被害を受ける高校生の負担を何とか町のほうで支援できないかということがスタートになったわけで、実は今までの我々の子育て支援というのは、小学生、中学生、保育園児もそうなんですけれどもそこに集中したんです。</p> <p>それは、やっぱり町立が中学校、小学校であり、保育園であったということで、ちょっと今まで高校生に支援がほとんどなかったというのが実情なんです。</p> <p>この考えを、この際に変えていかなければならないなど、松丸高校プロジェクトの関係もあるんですけども、やっぱりその高校がない分、高校生を大事にしなければいけないなというふうに、今、考えを転換しまして、そのこともあって今回初めて新規事業として、令和5年度当初予算に乗せたわけなんですけれども、御指摘のとおり、松野町の移住促進で、住む所と働く所は確保しましょう。そして、子育て支援は、県内でもどこにも負けないようにしようというのが、松野モデルというふうに名前をうってますんで、その高校生を含めた子育て支援、これから充実していきたいと思えます。</p>
<p>山 崎 委 員</p>	<p>皆さんも御存じの方もおられるかもしれないですけど、岡山県の奈義町というところ御存じだろうと思うんですけど、高校生1人当たり1</p>

	<p>5万3千円ですか、もう一律に賜金してるような自治体もあるんですね、出生率も、他自治体と比較しても、倍の出生率が記録されている自治体なんですけども、人口規模は、多分5800ぐらいでうちとあんまり変わらない自治体なんです。</p> <p>やっぱそういう人口が少ないなりでも、しっかり子育て支援をするならそれだけ出生率も上がって、よそからも来るっていうような町になれるということだろうと私は思ってるんですけど、そういう意味では、子育て支援、僕は松野町日本一になってほしいなと思ってますんで、県一とは言わず、日本一の子育て支援、そういうこと、また、強力に進めていただきたいと思います。</p>
山 田 委 員	<p>空き家利用についてお尋ねしたいと思います。</p> <p>移住促進事業の推進の中で、空き家を利用される時の補助とか、リフォーム代とか、いうことは、かなり充実した内容になつとると思うんですけども、町内の方が、例えばですけど、町内の方が空き家を、利用したいという場合については、そういった補助的な制度というか、そういったものがあるのかどうなのか、空き家がだんだん増えてますので、そういうことで活用していただければ、空き家の利用も、促進されるんじゃないかなというふうに思いますんで、そこら辺をお聞きしたいなと思います。</p>
井 上 課 長	<p>空き家の活用促進についてですが、現在のところ、町内の方が、町内の空き家の場合は、住宅リフォーム補助金というのが、活用できます。</p> <p>上限が20万円でございますが、自己または、空き家の改修修繕する時の補助は御用意をさせていただいておりますので、是非ともこちらでも御活用していただければありがたいと思っております。</p>
山 田 委 員	<p>そういう内容が、皆さんのところに周知されてるのかどうかちょっと分かりませんので、そこら辺も周知されたら、それならこの空き家をちょっと利用しようかなという人も出てくるかもしれませんし、実際私もそういう相談が1件ありましたんで、ちょっと聞いてみたか</p>

井上 課長	<p>ったんですけど、利用させていただける方向で、ちょっとその方にもお話ししたいなというふうに思います。</p> <p>今、山田委員さんの御質問もありました空き家の利活用、町内の方が、そこを使うっていう補助金もございますし、現在固定資産税の通知の時期に、そろそろなってくるんですが、町内の空き家を有している皆様には、松野町に空き家バンクがあります。そこで、紹介ホームページに載せませんかかって言ったような、内容や空き家で困り事ございませんか、そういった内容のリーフレットチラシを、また入れさせていただきますまして、空き家の流動化といいますか、活用につながるようなPRも、あわせて行ってまいりたいと思いますので、是非ともそちらで、また御周知をさせていただいたらと思います。</p>
森岡 委員	<p>地域づくり交付金のことでお伺いたします。</p> <p>各部落に、上限はありますがね、30万ぐらいから多分60万ぐらいあるんじゃないかなと思いますが、なかなか今の高齢化が進んで、何事も部落です、いうそもそもが、大変な時代になっておりますが、そこでこの交付金を、もう少しプラスの方向に向けられないかなと、いわゆる町長言われたように、地域の自治体でまちおこしをするという主体性を持つとと言われるのであれば、その辺を考えられたらどうかと思ひまして、お伺いたします。</p>
井上 課長	<p>現在この地域づくり交付金事業、始まって数年たったわけなんです、町長が目指しております、コミュニティ、部落が元気でなくては、松野町の50年後100年後はないというところの強い信念に基づいて始まった事業でございますが、スタートしていろいろと数年たったわけですが、各部落での使い道もだんだんこう、幅が広がって参っているところです。</p> <p>特に現在では喫緊の課題で、恐らくあるであろう街路灯のLED化であるとか、消火栓を改修するとか、そういったものが多く使われているようでございます。</p> <p>今後さらに、この地域の基礎単位である部落が、集落がきちんと持</p>

	<p>続できるように、主体性を持って取り組めるようにして参る、ひとつの財政的な権限移譲でございますので、しっかりとこちらは持続していくつもりです。</p> <p>で、あわせて各部落で、主体性をもって自分たちの部落はこうしていきたいっていうところのきっかけをつくるために、今回、先ほど御説明申し上げました、松丸と目黒で行って参りたい、あるいはもう実際に始まっている、ワークショップによる町の課題解決という手法をいずれは全部落にも広げてまいりたいなと思っております。</p> <p>その中で、地域づくり交付金をしっかりと財源として考えていただいて、自分自らが、自らの部落を守っていく。</p> <p>持続していくといった、まちづくりにつなげてまいりたいと思っております。</p>
森岡委員	<p>理解はしてるんですけども、実際問題、各部落、なかなか何するにしても自由に使えるお金が、どうしても高齢化進んで人を外部から雇い入れないといけないとか様々な問題が出てくるわけですよ。</p> <p>そこにはどうしても、各自治体の、各部落の予算だけで賄うのはなかなかほかの面もありますんで、大変な部落の会計になっておりますんで、その辺をひとつ考慮して各部落が存続できるような、補助制度をもう少し考えていただいたらと思います。</p>
坂本町長	<p>この地域づくり交付金なんですが、一応6年度末までの時限になってます。</p> <p>実は先日区長会で、区長さん方といろいろ相談をしたんですが、まず区長さん方は非常に助かっている制度やから、是非その時限になった後も存続をさせてほしいということは、全ての方が言われました。</p> <p>で、その中で、私としましても、部落の存続はこれまちづくりの1番の基本だから、時限になっても存続できるような検討はしていきますと、その中で、例えば増額、増額するにしても今の形で増額をするのか、それとももうちょっと、手挙げ方式といいますか、固定するのではなくて、今年はこういう事業するから、その分をかき増してほしい</p>

森岡委員	<p>とか、そういった形もあわせて、この6年度末の事業、更新の時期に合わせて検討していきたいというふうに思います。</p> <p>区長さんと綿密な相談され、今後取り組んでいただけたらと思います。</p>
山田委員	<p>一般会計予算の中の46ページの中に、宇和島鉄道開通100周年記念事業費で50万円計上していただいております。</p> <p>実は私もこの実行委員会のメンバーの1人なんですけども、そういう意味では、たくさんの予算を計上していただいております、うれしいなと思ってるんですけども、要は予土線の利用促進の一環としての、確かに事業になるんで、今年の11月にですね、そういった事業を計画していると思いますけども、これ一貫的な事業に終わってはまた、もったいないという言い方おかしいんですけど、それじゃあれなんで、予土線がなかなか利用する人が少ないと。</p> <p>ということで、今、厳しい状況になってるんじゃないかなと思うんですけども、先ほどの高校生の運賃の件もいろいろ考えられておると思うんですが、やはりあの予土線を何とか存続させるために、どのようにしていったらいいかというのはやっぱり、役場だけじゃなくて、議員も含めて、町民みんなが考えていかないと難しい状況じゃないかなと思うんですけども、今後具体的に、このようなことをして、利用者を増やすとか、そういうお考えがあるのか、ちょっとお聞きしたらなと思います。</p>
井上課長	<p>今回、大正12年の12月12日に宇和島鉄道が、吉野駅ですね吉野生じゃなくて、当時吉野駅だったと思うんですが、吉野駅に延伸してちょうど100周年を迎えるわけなんですけども、今回全線開通100周年記念事業、これはこれまでの先人の築いてきた遺産を検証するとともに、記念事業を行うことによって予土線のPR、そして、公共交通網の幹線としての存在というのをやはり、いま一度アピールするという内容をもとに、町としても是非補助をしていくという考えで予算を今回上程させていただいているものであります。</p>

四国の鉄道といいますか、全国的にこのローカル線の存続っていうのはやっぱり鉄道の存続っていうのは、今のように国の社会が発展、発達すると、なかなか簡単に、この鉄道が更に復活していくっていうのは困難なところであるというのは十分認識しております。

その中で、複合的に、対策は当然うって参りたいと思っております。

1つは通学、通勤、特に通学の朝晩の定時の路線運行というのは、維持してまいりたいと思います。

そのほか、日中、そして今後インバウンド、そういったところを見据えた観光、鉄道を資源として捉えていただいて、観光で使っていくというところで、幾らかを伸ばしていかなければならないというのがあります。

そういったところも複合的に対策を打っていくっていうところの考えです。

1つは、予土線をしっかりとアピールするということは当然あります。で、要は、乗る人を増やすっていう、1番の芯の部分があります。

その辺りまた観光のほうで少し触れさせていただくことで、産業常任委員会のほうで少し触れさせていただくんですが、鉄道っていう資源を生かした、観光振興というところも考えていかなければならないと思っております。

あと、もう1つはやはり沿線の各市町と足並みをそろえて、そしてこれまでは、JRのほうに残してくれ残してくれの話だけじゃなくて、今後は、JRと鉄道事業者と一緒に、どうすれば効率のいい運営ができるのか、というところも、話し合いを始めていかなければならないと思っております。

その上で、鉄道をどうやって維持していくかというのを、役割分担していかなければならない時期になっているなというのがあります。

その中の、今回の予算案としては、一つのPRの素材として、宇和島鉄道全線開通100周年の記念事業を、の予算を提案させていただ

山 田 委 員	<p>いたところでは。</p> <p>内容的にはもう十分よろしいんですが、是非我々もその鉄道を残せるように、予土線を、やっぱみんなで考えていかないけんと思いますんで、そういった機会をまたいろいろ作っていただいて、協議していきたいなと思います。</p>
山 石 委 員 長	<p>他にありませんか。</p> <p>質問が無いようであれば、採決に移ります。</p> <p>ただいま審査しております、議案第18号について、原案のとおり御承認いただけますか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
山 石 委 員 長	<p>賛成全員です。</p> <p>したがって、当委員会は、議案第18号「令和5年度松野町一般会計予算」歳入該当分、歳出2款総務費、ふるさと創生課所管分については原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。</p> <p>会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。</p> <p>令和5年4月27日</p> <p>松野町議会総務常任委員会委員長 山石 恭助</p>